

新潟焼山の火山活動解説資料（平成 25 年 10 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 3-①、図 5、図 6）

新潟県土木部砂防課が焼山温泉（山頂の北北西約 8 km）に設置している監視カメラでは、今期間、視界不良のため不明の期間がありますが、その他の期間は山頂部東側斜面の噴気は少なく、噴気の高さは 0～50m で経過しました。

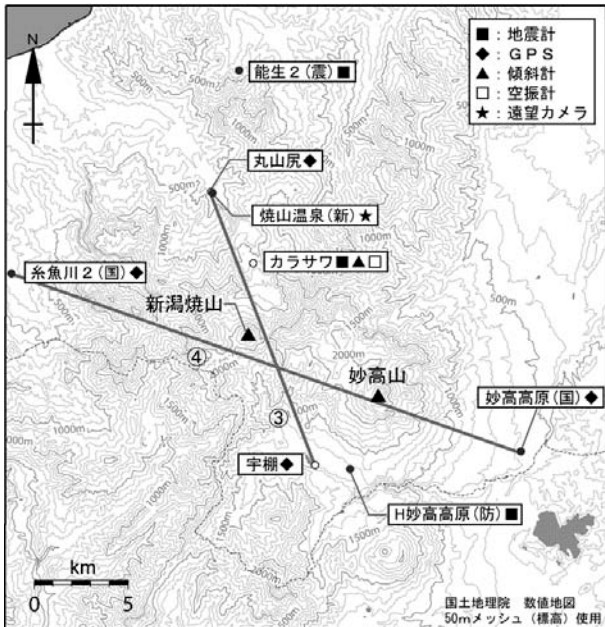
7 日に新潟県の協力により実施した上空からの観測では、山頂付近から白色の噴気が高さ約 50 m 上がり北東方向に流れていました。また、観測中に山頂北東方向で火山ガス臭を感じました。

・地震や微動の発生状況（図 3-②、図 4）

今期間、新潟焼山付近の地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3-③④）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、（新）：新潟県

図 1 新潟焼山 観測点配置図

GPS 基線③④は図 3 の③④に対応しています。



図 2 新潟焼山 山頂部の状況

（10 月 28 日 焼山温泉監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 11 月分）は平成 25 年 12 月 9 日に発表する予定です。

この資料は、国土地理院、東京大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

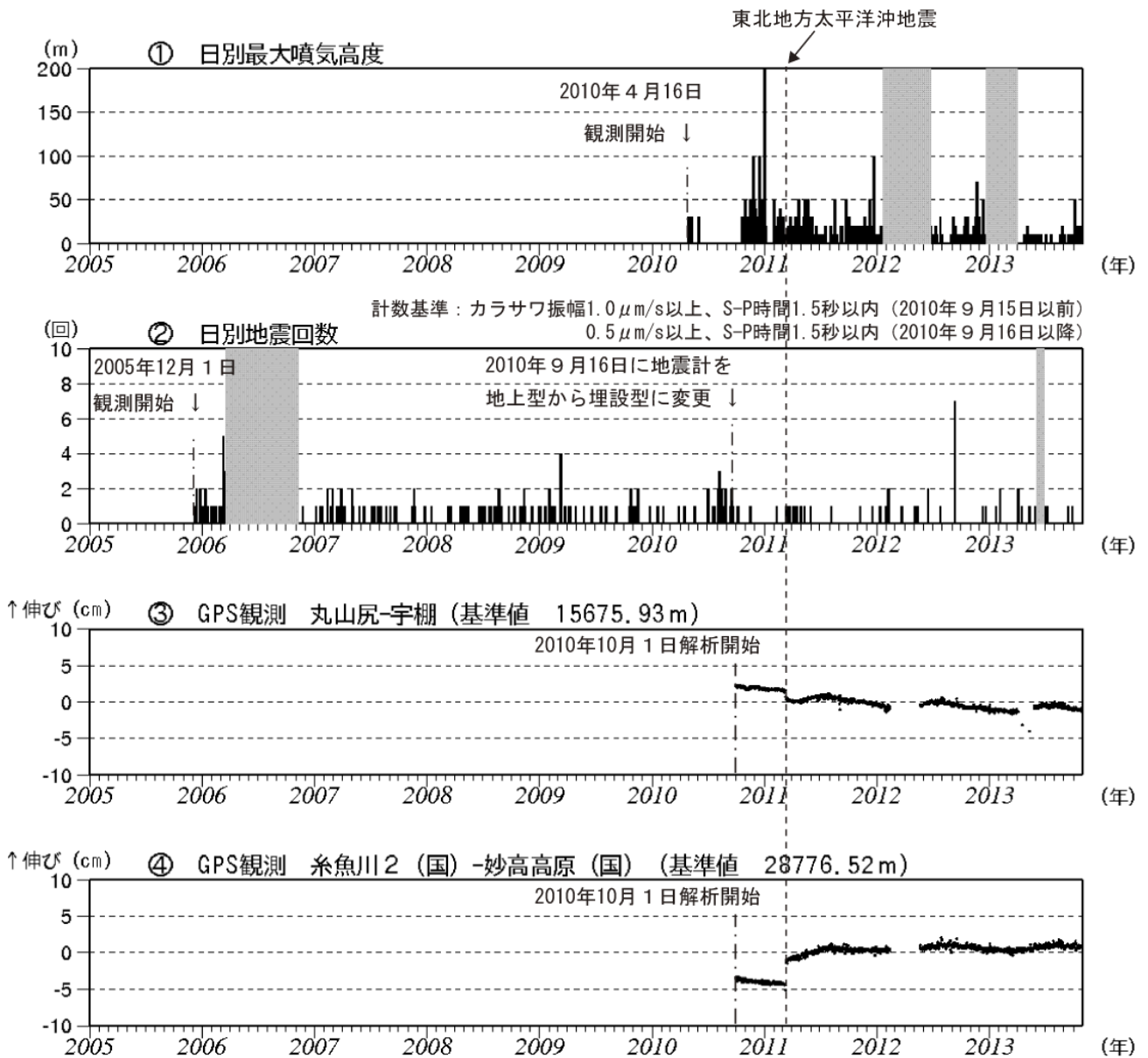


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2005年12月1日～2013年10月31日）

- ①：定時観測（09時・15時）による日別最大噴気高度
 - ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ②：日別地震回数
 - ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ③④：GPS連続観測結果（国）：国土地理院
 - ・③④の基線には、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。
 - ・③④は、図1のGPS基線③④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

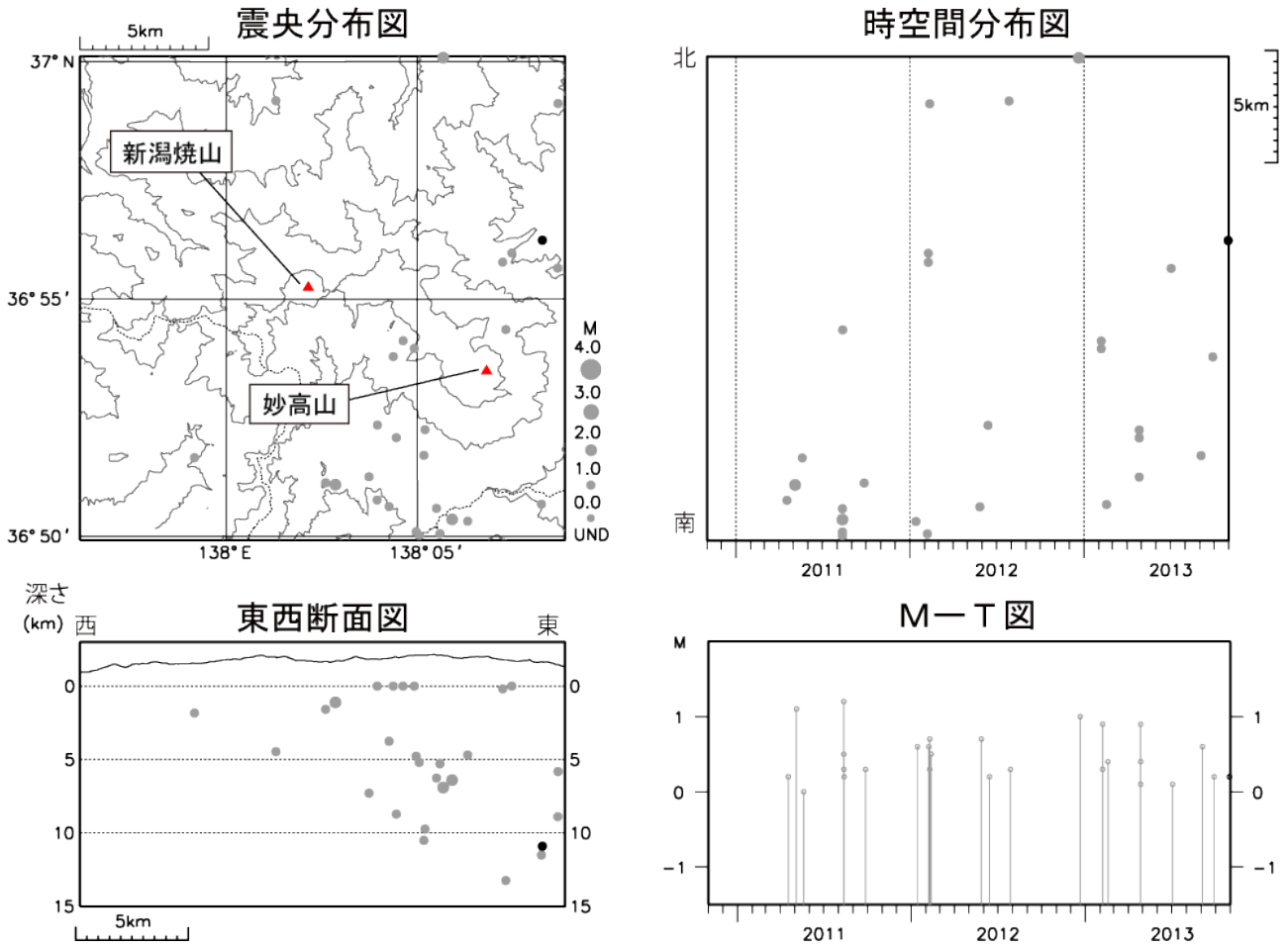


図 4 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010 年 11 月 1 日～2013 年 10 月 31 日）
 ●：2010 年 11 月 1 日～2013 年 9 月 30 日 ●：2013 年 10 月 1 日～10 月 31 日
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



図5 新潟焼山 写真の撮影方向



2013年10月7日 図5の①より撮影



2013年10月7日 図5の②より撮影



2013年10月7日 図5の③より撮影



2013年10月7日 図5の④より撮影

図6 新潟焼山 山頂付近の状況

山頂付近から白色の噴気が高さ約50m上がり北東方向に流れていました（図中赤丸）。